

平成26年度  
自己点検・評価報告書

目白大学短期大学部

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	総括評価シート	組織名称 (評価单位名称)	短期大学部
---------------------------	---------	------------------	-------

<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>[教育]</p> <p>①「ベーシックセミナー」の充実が図れた。オリジナルワークシートをより充実し、アクティブラーニングを取り入れ、グループワークにも時間を割いた。学生の積極的参加、満足も得られた。フレッシュマンセミナーへの有機的連携も図れた。担任と学生のコミュニケーションを図る良い機会になっている。</p> <p>②知識の定着を目指しての自宅学習も徐々に定着してきている。</p> <p>③「インターンシップ」に製菓学科の学生が参加し、実質3学科そろっての基礎教育科目となった。履修者数もビジネス社会学科の全員履修をはじめとし、短大生61名(全体の約3割)の履修であり、就職活動に役立っている。</p> <p>④学外授業を通じての学生の学びに幅広い知識を修得させることができ、就職活動にも良い影響を与えている。</p> <p>⑤検定試験を目指しての学習に教員が力を注いだ。検定取得者が増加してきている。</p> <p>⑦「教養マラソン」を実施、6名の完走者が出た。学生の教養を身につける機会の一助となった。</p> <p>⑧「授業参観」授業参観を始めて2年目になるが、学科の枠を超えて、授業を参観しあった。自身の授業を振り返る機会としての効果は大きい。</p> <p>[研究]</p> <p>①科研費の継続研究が1件、新規1件、特別研究費、科研費の申請者が出ている。</p> <p>②海外の研究者との共同研究、発表を行っている。</p> <p>③製菓学科が紀要に継続的に投稿している。今年から紀要の論文規定が変更され、査読付きとなった。</p> <p>[学生指導]</p> <p>①クラス担任、ゼミ担任が個人面談を積極的に実施し、丁寧、適切な指導を行った。</p> <p>②キャリア教育に力を入れ、就職活動の積極的なサポートを行った。就職率は93%であり、ビジネス社会学科においては2年連続100%となった。</p> <p>③保護者会の運営に力を入れ、保護者との連携を図りつつ退学、休学を減らす努力をしている。</p> <p>④学校行事(桐和祭、スポーツフェスティバル)積極的な参加を促した。</p> <p>[社会貢献]</p> <p>①生活科学科においては5名の教員が15項目に関わっている。東武百貨店との産学連携事業、研究支援グループ依頼の高齢+B8者福祉施設「神楽坂」での体験教室等。</p> <p>②製菓学科においては「親子菓子作り体験教室」の実施、桐和祭での商品販売、喫茶販売などで、菓子の魅力を伝えることができた。</p> <p>③中学、高校生を対象とした「スイーツコンテスト」を実施し、予想を超える多数の応募者があり、菓子の存在に対する広報ができた。</p> <p>④米屋株式会社との共同開発の「メジューどら焼き」を販売することができた。</p> <p>⑤株式会社ナポリアイスクリームとの新商品開発の一環として、学生のアイデアを活用する企画コンテストを実施し、レベルの高いジェラートを商品化することができた。</p> <p>[組織マネジメント]</p> <p>①第三者評価を受審して、適格を得ることができた。</p> <p>②中長期目標・計画の26年度評価、27年度の計画を策定した。26年度評価に関してはほぼ目標とおりに進めることができた。</p> <p>③学生募集に短期大学部教職員が全員で取組、当初の目標をほぼ達成することができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>[教育]</p> <p>①アクティブラーニングに取り組んでいるが、教員間に温度差があり、今後とも推進していく必要がある。</p> <p>②経年の課題であるが基礎学力の不足している学生に対するサポートが十分であるとは言えない。なかなか有効な方法がなく、今後とも取り組んでいく。</p> <p>③卒業研究の卒業論文に関して、教員間に差があり、短期大学部として一定の基準を設ける必要があると考える。27年度中に基準を設けるべく議論を進めたい。</p> <p>[研究]</p> <p>①学会への発表、研究会への出席があまり活発とはいえない状況であり、校務等を効率化し、研究時間の確保に全学で取り組まなければならないと考える。</p> <p>②紀要への投稿が少ない。協力を促進したい。</p> <p>③学科を超えての共同研究(特に授業改善に関する事柄)を推進したい。</p> <p>[学生指導]</p> <p>①退学、休学が依然として少なくない状態であり、今後減らすべく、様々な方策を考えたい。</p> <p>②就職活動への教員の積極的なサポートをより推進するため、教員の就職に対する知識を上げる必要がある。</p> <p>③遅刻、欠席等の学生の生活指導に対しては教員間にばらつきがあり、学科全体として、同じような取組をすることが必要と考える。</p> <p>[社会貢献]</p> <p>①学科により学科内容により差がある。ビジネス社会学科においては社会貢献がされていず、学科として取組必要がある。</p> <p>[組織マネジメント]</p> <p>①各委員と学科長との連携がスムーズとは言えない状態であり報告、連絡を通じてきめ細かい意思疎通が重要と考える。また、各委員が提案型になるような方策を考える必要がある。</p> <p>②卒業生との連携を深めつつあるがより一層卒業生の協力を得つつ、「目短ブランド」を作っていく。</p> <p>③短大の募集は苦戦をしており、27年度入学者の確保は少し上向いたが、厳しい状態は続いている。常に状況を判断しつつ、魅力のある短大づくりを進めていく。</p>
---

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	生活科学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ベーシック 세미나及びフレッシュマンセミナーの学科プログラムにグループワークを積極的に取り入れ、主体的・自律的な学びを実践</li> <li>②その他の授業でも、主体的な学びのために、参加型・双方向の授業を心掛け、講義内容や事前学習や宿題、授業中のワークシートなどを工夫</li> <li>③学力差や知識・技術の差に配慮した授業・実習の工夫</li> <li>④知識の定着及び自宅学習の推進をめざしての小テストの実施と添削指導</li> </ul> <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ワークシートや小テストの結果が完全にはフィードバックしきれなかったこと</li> <li>②学力差・技術の差の大きな学生の混在により、同一内容の授業展開が不可能な場合における、さらなる工夫と改善</li> </ul>			
研究	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①『目白大学短期大学部 紀要』第51号への論文発表は3名にとどまった。</li> <li>②特別研究費及び科学研究費の申請者が1名いた。</li> </ul> <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学会の研究会等への出席回数が全体的に少なく、学内外における論文発表も昨年度と比べて低調であった。</li> <li>②若手を中心に、特別研究費や科研費等の獲得を目指して研究を行うことが必要</li> <li>③昨年度の50年記念号としての『目白大学短期大学部 紀要』への執筆というような特別な意識が無くなった後、今年度以降の継続的な投稿の促進が大きな課題である。</li> </ul>			
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ベーシックセミナーのグループワークにおける仲間作り支援</li> <li>②クラス担任やゼミ担任は、既定の個人面談の他、必要時には随時面談をおこない、学生の把握と精神的フォロー・サポートに努めた。</li> <li>③遅刻・欠席が目立つ学生にはメールや電話、口頭で出席を促し、基本的な生活習慣の改善と精神的なフォローを根気よく行った。</li> <li>④就職活動の積極的なサポートを行った。</li> </ul> <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①就職活動を全くしようとしない学生や積極的でない学生をどう動かすかは、今後の大きな課題である。</li> <li>②東京都委託生については3月に入っても就職先が決まらない学生がおり、就職支援については反省すべき点がある。</li> <li>③授業に関する学生指導はどの教員も行っているが、就職支援や遅刻・欠席等の基本的な習慣に対する学生指導における教員間の温度差をなくす必要がある。</li> </ul>			
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教員5名が各々複数のことを行っており、全体では1ページに明記した通り社会貢献関連6項目全てに15件関わっている。</li> <li>②特に東武百貨店との産学連携事業では、フードフィールド研究支援グループ依頼の高齢者福祉施設「神楽坂」等での体験教室を行い、ファッションフィールドの担当教員がそれぞれのゼミ生を中心とした学生を指導した。</li> </ul> <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学会・協会等役員4件の該当者は3名で、地域貢献・産学連携・その他の社会貢献4件もファッションとフードの2名だけなので、特定の教員のみでなく、出来るだけ多くの教員が、社会的貢献の各項目に係ることを目指す。</li> <li>②特に社会貢献関連6項目が全く空白の教員に対して、積極的に係るよう促す必要がある。</li> </ul>			
組織マネジメント	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学長指導の下、学科長及び各委員は自分の職務の遂行に努めた。が、年度途中からは委員の職務を学科長任せにする体質が散見。</li> <li>②「ベーシックセミナー」及び形を変えたフレッシュマンセミナーを、グループワークを中心にした新たな授業の実践ととらえ、昨年度の反省も踏まえて教員全体で取り組んだ。</li> <li>③第三者評価に関して、短期大学部全体で準備委員会を組織して取り組み、適格の評価を受けた。</li> <li>④学長と3学科の中期計画委員を中心に短期大学部中期目標・中期計画の26年度の実施状況を自己評価し、27年度の実施計画を立てた。</li> </ul> <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各委員の責務の自覚と、学科への迅速なフィードバック</li> <li>②新しいアイデアはどんどん取り入れて学生の確保に取り組んでいるが、成果がなかなか上がらないのでさらなる施策の必要性を痛感</li> </ul>			
その他	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①昨年度の短期大学部50周年記念事業での短大一丸となつての準備以来、学科を越えての教員間の関係もできつつあったが、今年度は教授会も短大独自のものになり、さらに短大全体で動くという機運は高まっている。</li> <li>②短期大学部公開講座を、各学科1回担当して合計3回実施した。</li> </ul> <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①短期大学部公開講座について内容及び開催時期、準備等を再検討し、開催するからには、広く宣伝して多くの参加者を集めるとともに、充実した内容で参加者が満足できる講座にする必要がある。</li> </ul>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	製菓学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 専任教員が情報共有しながら学生個々の資質に合わせて、専門教育科目における領域（製菓の知識・製菓の技能・製菓の広域）ごとに知識や技術の伝授を行い、学生4～5名でのチームワークを図りつつ菓子作りの大切さを指導、学習させた。</li> <li>② 「販売実践」の授業で製作した製品を実際に販売する体験を通じて大量生産、商品管理、販売技術、金銭管理などを実践的に学ぶ内容は、学生にとって特に製菓現場へ就職希望者には魅力的な授業になっている。</li> <li>③ 「ベーシックセミナー」を通して担任と学生のコミュニケーションが高まり学生個々の個性を担任が認識出来る教育効果が高まった。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 日常的な礼儀作法が出来ない学生もおり、挨拶の必要性、大切さを我々教員も認識しながら授業を通して指導していきたい。</li> <li>② 学生によって科目に対する興味、意欲の持ち方に差があり、授業に対して常に積極的に取り組むように指導したい。</li> <li>③ 社会教育（市場調査、美術館見学、製菓道具街見学など）を通して、学生の教養、感性を磨いていきたい。</li> </ul>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 製菓に関する紀要を発表し、専任教員が研究などに値する製菓学科業務を遂行した。</li> <li>② 「大学は美味しいフェア」で米屋株式会社と共同開発した「メジソーどら焼き」を販売して、大変好評を得る事が出来た。</li> <li>③ 株式会社ナポリアイスクリームとの新商品開発は、学生のアイデアを活用するため、企画コンテストを実施してレベルの高いジェラードを商品化した。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 米屋株式会社と共同開発した「メジソーどら焼き」は更なる進化をするため、レシピ開発業務を行っていく。</li> <li>② 株式会社ナポリアイスクリームとの新商品開発は、学生のアイデアを活用するため、企画コンテストを実施してレベルの高いジェラードを商品化出来る様引き続き継続する。</li> </ul>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学業面、生活面など学生個々が抱える問題などについて、担任を中心に学生の情報は教員一同が共有し個人面談などで丁寧に対応し適切なアドバイスをした。</li> <li>② 保護者会の開催で在校生、卒業生に來校して貰い、就職活動の流れ、就職してからの人との接し方、業務方法などを発表して保護者との細やかな情報を共有し密なる構築に努めた。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① キャリアセンターとの協力、連携を密にして、業界に対する求人の呼びかけを強め、学生の就職先の選択肢を多くする。</li> <li>② 就職活動に対する指導の徹底を図りたい。就職活動の流れ（進め方）を理解していない学生もいるようで、順序を立てた指導が必要と考えている。</li> <li>③ 学生が就職するということに取り組める体制作りをして、就職率のさらなる向上を図りたい。</li> <li>④ 現代の若者の言葉遣いが乱れているものと思ひ、授業（日本語表現Ⅰ・Ⅱ）を通して是正出来ないかと思う。</li> <li>⑤ 卒業生からのアドバイスを聞く機会を設け業界及び社会との接点を増やしていく。</li> </ul>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 桐和祭での商品販売、喫茶販売などを通して、地域の方々と交流を図り、菓子の魅力を伝える事が出来た。</li> <li>② 「親子菓子作り体験教室」の実施により、地域社会に「菓子作り」を通して貢献出来た。</li> <li>③ 「販売実践」の授業における売り上げ金全額を、東日本大震災への義援金日本赤十字社に継続寄付した。</li> <li>④ 「公開授業」により製菓学科を最大限にアピール出来た。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会に対して「製菓」をもとにどのような貢献出来るか、を学生と教員と一緒に考える時間を作り、菓子作りを通した社会貢献の方策を継続検討していきたい。</li> <li>② 「親子菓子作り体験教室」を通して、近隣の子供に菓子作りの楽しさや親子で菓子を作る楽しさを体験させたい。</li> <li>③ 高校教員を対象とした体験実習を充実させ、製菓学科の教育力を理解してもらい、高校の教員を通した社会貢献活動を継続したい。</li> <li>④ 「公開授業」を通した社会貢献活動を継続したい。</li> <li>⑤ 高齢者が安心してお菓子が食べられる工夫は高齢化社会を迎え不可欠であり役割は大きいと考え、対策を考えたい。</li> </ul>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学外および保護者、学内に完成した作品を通じて製菓学科の授業を周知する目的で、メジスイーツblogを開始した。</li> <li>② 「桐和祭における劣化商品の販売」により危機管理「食品取り扱い」マニュアルを製作。</li> <li>③ 中学・高校生を対象にした「スイーツコンテスト」を実施して、予想を上回る応募者数（178名）となる。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① メジスイーツblogは、今後も本学科の受験を検討している人々に、授業内容および日常の取り組みを公開することにより、これまで以上に本学科の理解が深められ、魅了をアピール出来るように管理する。</li> <li>② 危機管理「食品取り扱い」マニュアルを遵守し遂行していく。</li> <li>③ 引き続き「スイーツコンテスト」の開催を通して、高校の先生方に本学科をアピール出来る様に検討する。</li> </ul>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特になし。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成24年度にはじめて開催した「卒業生の集い」を発展させ、将来的には「製菓学科・校友会」の足がかりとしたい。</li> </ul>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	ビジネス社会学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①平成25年度に引き続き、販売士1級取得のための特別講座を実施した。</li> <li>②学科全体・フィールドごと・科目ごとの学外研修を実施している。</li> <li>③環境教育のためのゲストスピーカーによる食品ロス講座を開催した。</li> <li>④キャリア教育のためのインターンシップを充実された(期間の長期化・受け入れ先の多様化)</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①新規着任教員を迎えての教員間の教育上の連携を図る。</li> <li>②平成28年度カリキュラム改正に向けての教材開発・教育方法を検討する。</li> <li>③事前・事後学習の指導を徹底する。</li> <li>④学生が主体的に卒業研究に取り組めるような環境作りを行う。</li> </ul>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①国際学会において研究発表を行った。</li> <li>②複数の専任が科研費を継続して獲得している。</li> <li>③海外の研究者との共同研究プロジェクトを運営している。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①短大全体の研究交流会の発足を受けて、学科の研究交流を活発化させる。</li> <li>②短大紀要への投稿が少なく、今後学科教員に投稿の促進が必要である。</li> </ul>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①担当がオフィスアワー等に学生を随時呼び出し、学習面、就職活動の指導を行っている。</li> <li>②マナーや言葉遣いの学習機会は、短大教育の強みと位置づけ、日常的な指導を徹底している。</li> <li>③キャリア教育においては、高い正社員志向を実現している。</li> <li>④学校行事・学生会活動への積極的な参加を奨励している。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①2年生の出席率向上のための指導方法を検討する。</li> <li>②退学者が依然として出ている。学生の授業出席をきま細かくチェックし、タイムリーに個別指導を強化する必要がある。</li> </ul>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①東日本大震災でのボランティア活動を行った。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個別の教員の努力でのボランティア活動であるので、今後、組織的にボランティアに関連する活動をより推進していく必要がある。</li> </ul>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①引き続き、科内会議以外にも頻繁にミーティングを行うことで、学科内の連携を図っている。</li> <li>②短期大学部が受審した第三者評価を通して、学科内の組織マネジメントの現状と課題を明らかにした。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①新任非常勤講師との密接なコミュニケーションを図る。</li> <li>②平成28年度カリキュラム改正に向けて、科目間の調整を行う。</li> <li>③各委員が積極的に学科の問題点等を考え、提案していく体質にする必要がある。新しいことに対するアイデアがあまり出てこないことは課題であり、学科構成員が意識するように働きかける必要がある。</li> </ul>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①短期大学部での委員会活動を推進する必要がある、27年度においてはキャリア委員会、教務委員会は短大学部は独立した形での運営をする予定である。</li> <li>②研究交流会、非常勤との教育懇談会、授業参観等を通じて短期大学の教育内容をより充実したものにしていく機運が高まってきている。</li> <li>③オープンキャンパスにおいても工夫がみられるようになった。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①今年は学生募集が順調に推移したが、おかれている環境は厳しく、教育カリキュラム、教育内容、授業改善に努めることが急務である。</li> </ul>			